

フードシステム論 (2026年 前期)

高崎経済大で
農業金融解説

日本公庫
前橋支店

【ぐんま】日本政策金融公庫前橋支店は2日、高崎市の高崎経済大学で出張講義を開いた。同公庫、農林中央金庫前橋支店が同大と連携し、農業金融を学ぶ機会を提供する取り組みの一環。地域政策学部の子生約160人が受講し、農業を支える金融の役割について理解を深めた。

出張講義は、宮田剛志教授が担当する「フードシステム論」の講義時間に実施。日本公庫前橋支店の森下勝弘支店長兼農林水産事業統轄と融資課職員3人が登壇し、農業金融と食料システムの関わりを解説した。

森下支店長は、複雑化する食料流通の構造を説明。農家数が激減する一方で大規模経営体が生産を支えている

現状や、付加価値を高める「6次産業化」に触れた。融資課の3人は、政府系金融機関の役割の他、有機農家やコンニャク芋農家の高付加価値化に向けた伴走支援など、具体的な実務を紹介した。

宮田教授は「食と農を支える農業金融の重要性や現場のやりがいを知り、学生が将来を考える上で非常に参考になった」と話した。

©日本農業新聞 無断複製転載を禁じます。

※ 日本農業新聞 2026年7月9日（木）付。
※ 許諾を得ております。

フードシステム論 (2026年 前期)

大学で出張講義
金庫の役割解説
農林中金前橋支店

【ぐんま】農林中央
金庫前橋支店は9日、

高崎市の高崎経済大学
地域政策学部で出張講
義を行った。農産物が
生産され、消費者にわ
たるまでの流れである
「フードシステム」を
学ぶ学生約160人が
受講。農林水産業を下
支えする同金庫の役割
や食農ビジネスの取り
組みについて理解を深
めた。

講義では、同支店の
高木克尚副支店長と営
業班の伊藤佳里奈さん
が登壇。同金庫がJA
バンクの全国組織とし

て資金運用や経営指導
を担う点や、生産から
消費に至る「食農バリ
ューチェーン」の課題
解決に注力しているこ
とを解説した。

具体例として、アグ
リテック企業との連携
によるスタートアップ
支援や「農福連携」の
試みを説明。スマート
農業を実践する法人の
設立を支援した例や食
品リサイクルループの
構築など、食と農をつ
なぐ取り組みを紹介し
た。

高木副支店長は「農
林中央金庫が日本の食
と暮らしを支える使命
を持った組織であるこ
とを覚えてほしい」と
学生に呼びかけた。

©日本農業新聞 無断複製転載を禁じます。

※ 日本農業新聞 2026年7月14日（火）付。
※ 許諾を得ております。

フードシステム論 (2026年 前期)

生産者と企業を
つなぐ懸け橋に

農林中金前橋支店
高経大180人に講義

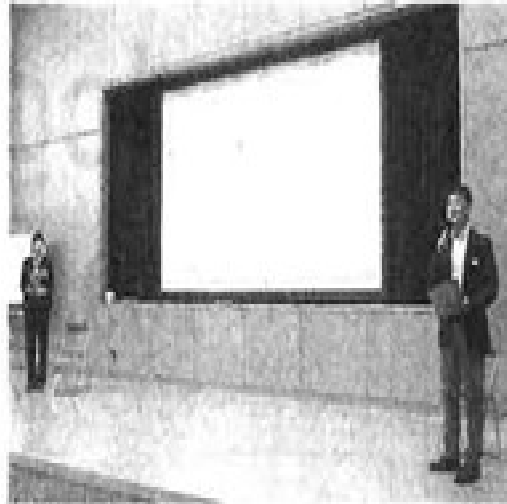
農業を支える金融への理解を深めてもらうべく、農林中央金庫前橋支店は9日、高崎経済大で講義を行

った。写真。学生180人が生産者と企業、消費者を結ぶ懸け橋となる同金庫の役割を学んだ。

同支店の高木克尚副支店長と伊藤佳里奈さんが登壇し、農業ベンチャーへの投資や学生向けビジネスコンテストの開催、人手不足を補う農福連携など多角的な取り組みを紹介した。

伊藤さんは農業関連のスタートアップ企業の支援に触れながら「農業の世界も皆さんが思う以上にテクノロジーが活用されている」と説明。高木さんは「単にお金を貸すだけではなく、地域企業の挑戦と一緒に考えて応援する役割がある」と伝えた。

同大との連携授業は2年前から始まり、今回は「フードシステム論」の授業の一環として実施した。



※ 上毛新聞 2026年7月21日（火）付。

※ 許諾を得ております。